

第Ⅲ期 左面幕（応龍と霊亀・雷文図）経過報告

令和5年度から令和7年度の3ヶ年をかけて左面幕（応龍と霊亀・雷文図）の復元新調を進めております。

下記に左面幕における復元新調の進捗状況についてご報告申し上げます。

事業期間：令和5年9月～令和8年3月末
事業費：15,700,000円（税別）
施工業者：株式会社川島織物セルコン



旧左面幕

左面幕 監修・検討会の進捗状況

令和5年度	
9月	・刺繍下絵の検討 左面幕・正面幕の下絵と完成した正面幕を並べて、左面幕の下絵を検討。 ・刺繍試作の検討 正面幕とつながる応龍の胴部分の試作を検討。 尚、応龍の胴部分の試作と並行して、応龍の顔部分と霊亀の金糸と綴じ糸の組み合わせを検討。

10 月	・ 刺繍要領について確認 試作の刺繍表現について正面幕と異なる点があったので、前任の刺繍工房のもとへ赴き下地作りの方法などを確認、フェルトなどの材料も入手した。
1 月	・ 刺繍下絵の検討 左面幕の下絵と新調した正面幕を並べて、左面幕の下絵を検討。 応龍の顔・胴部分、霊亀に使用する金糸と綴じ糸の組み合わせ案を提示。 ・ 刺繍試作の検討 正面幕とつながる応龍の胴部分の 2 回目の試作を検討。
3 月	・ 刺繍試作の検討 応龍の顔部分の試作を検討。 →肉作りや切り付け部分など課題が残るので、再度前任者へ確認。 応龍・霊亀の試作を継続。



令和 6 年度	
5 月	・ 刺繍要領について確認 正面幕からつながる応龍の胴部分の本刺繍を進めるとともに、前任者のもとへ赴き、応龍の顔部分の刺繍要領を教わった。
10 月	・ 刺繍の検収 正面幕とのつながり部分である応龍の胴部分の刺繍状況を検収。 専門家より、応龍の爪部分を刺繍する際は見た目と丈夫さの両立を図るよう指導があった。 ・ 左面幕の懸装についての検討
2 月	・ 刺繍の検収 応龍の胴部分の刺繍作業が進んだので、刺繍状況の検収を実施。 尚、応龍の胴部分の刺繍は 3 月末を目途に終え、その後応龍の顔ならびに脚の刺繍、霊亀の試作に入る。

東町布袋車大幕復元新調事業-第Ⅲ期事業報告



令和 7 年度大幕復元新調事業

第Ⅲ期 左面幕（応龍と霊亀・雷文図）経過報告

令和 5 年度から令和 8 年度にかけて左面幕（応龍と霊亀・雷文図）の復元新調を進めております。

下記に令和 7 年度における左面幕復元新調の進捗状況についてご報告申し上げます。

事業期間 : 令和 5 年 9 月～令和 8 年夏予定

事業費 : 15,700,000 円（税別）

施工業者 : 株式会社川島織物セルコン



旧左面幕

令和 7 年度	
6 月	・第 41 回有松絞りまつりにて、大幕復元新調事業の経過報告の一環として「布袋車大幕制作実演展示」を開催。 新旧後面幕の展示のほか、制作工程の説明パネル、スライドショーの上映、これまでに制作された刺繍試作パーツの展示、京繡（きょうぬい）の伝統工芸士である小橋守氏（小橋岳氏のお父上）による実演を実施。 ・名古屋市文化財保護室ならびに専門家チームによる左右幕懸装の実地調査

12 月	・ 刺繍の検収 応龍の刺繍パーツはほぼ完成し、霊亀の刺繍へ移行。 甲羅部分は出来上がり、縁部分の刺繍へ移行中。 ・ 基布の緋羅紗の継ぎ目位置について検討 刺繍の仕上がりに則した継ぎ目位置での縫製をおこなうのか、旧幕に準じた縫製をおこなうのか、専門家チームと協議した結果、前者に決定。 継ぎ目を応龍の刺繍のやや中央に配し継ぎ目が目立たないように考慮した縫製へ（尚、第Ⅳ期 右面幕の基布の継ぎ目位置も新左面幕に準じるものとする）。
3 月	・ 刺繍の検収 各刺繍パーツの制作状況および緋羅紗へ綴じ付けている状況を確認した。 応龍の刺繍は首まわりの刺繍パーツの切り付け作業（各刺繍パーツを糸で固定する作業）を進めている段階にあり、この切り付け作業完了後、緋羅紗への切り付け作業へ移行する。 霊亀の刺繍パーツは脚、甲羅の順に切り付け作業を進め、雷文図の刺繍へと移行する。





第Ⅲ期 左面幕の今後の復元新調スケジュールについて

令和8年6月末の完成に向け、以下のスケジュールで復元新調を進めてまいります。

- 4月下旬頃 霊亀の切り付け作業を完了し、雷文図への刺繍へ移行。
- 5月末 左面幕の刺繍に関する全行程を完了し、仕立ての工程へ移行。
- 6月末 左面幕、完成・納品

尚、新左面幕の御披露目は令和8年10月4日（日）の有松天満社秋季大祭当日の有松山車会館にて予定をしておりますので、ご予定くださいませ。

令和8年度東町布袋車大幕復元新調事業について

本事業は、左面幕の復元新調完了後、第Ⅳ期 右面幕（麒麟・雷文図）の復元新調へ移行し、専門家の監修のもと製作を進め、令和11年に完成を予定しております。

引き続き、皆様からの厚いご支援・ご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

有松天満社文嶺講